

令和 6 年 6 月 19 日現在

機関番号：32702

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2023

課題番号：19K15164

研究課題名（和文）ベトナム・ハノイ旧市街の歴史的な商業形態の保全に向けた都市計画的手法の検討

研究課題名（英文）Study on the Urban Planning Methodology to Conserve Historic Commercial Style in Hanoi's Ancient Quarter, Vietnam

研究代表者

柏原 沙織 (Kashihara, Saori)

神奈川大学・建築学部・特別助教

研究者番号：00636384

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：歴史的都市景観(HUL)の維持継承には、その地区らしい変化の延長上の保全型マネジメント立案が重要である。本研究はベトナム・ハノイ旧市街の「職業の通り」の長期的変遷を文献・統計資料・現地調査より明らかにし、変化しながら独自性を維持する動的なシステムとしての価値を指摘した。さらにその価値を維持する同業者集積の変化プロセスの一端を、史料を用いたGISによる地区分析、植民地期と現在の通りの分析から同業者集積に関わる物理的特徴を指摘した。また、HULの変化度を測る景観スコアを開発し、景観への影響の強い転用用途を特定するとともに、現在の街区・通りよりも細やかな街区辺単位で景観管理を進める必要性を示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の意義は、ベトナム・ハノイ旧市街の歴史的町並みの生きた保全に向けて、景観の変化を客観的に捉えるための景観変容スコアを開発したこと、これまで限定的にしか捉えられていなかった同業者の集まる通りの価値を指摘し、さらに歴史に根差しつつ適応的变化を遂げた同業者の通りを価値付けたこと、植民地期史料に基づき同業者の通りの存在と変遷を定量的に可視化したこと、景観変化の最小単位として街区辺単位を提案したことである。さらに、歴史的都市景観の議論に対して、変化の「強度と速度」の2軸の視点で歴史性を拡張することで、歴史的な町並みの許容可能な変化の限度に関する議論に向けた視点を提供したことである。

研究成果の概要（英文）：Maintaining historic urban landscapes (HUL) requires the development of conservation-oriented management strategies that build on the area's characteristic transformations. This study elucidates the long-term transitions of "craft streets" in the Ancient Quarter of Hanoi, Vietnam, through literature, statistical data, and field surveys, highlighting their value as dynamic systems that maintain identity while incorporating changes. Furthermore, it reveals part of the transition process of trade clusters that maintain this systemic value through GIS-based district analysis using historical records and analysis of craft streets during the colonial period and the present, identifying the physical characteristics related to trade clusters. Additionally, the study develops a landscape change score for HUL, identifies high-impact conversions on the landscape, and demonstrates the need for more detailed landscape management at the block edge unit rather than the current block/street level.

研究分野：都市保全

キーワード：歴史的都市景観 商業地区 景観変容 可視化 GIS 定量的分析

1. 研究開始当初の背景

ユネスコが提唱する歴史的都市景観(HUL)は、開発圧力が高く変化にさらされやすい都市部の有形・無形の文化遺産を包含し、これらの変化を適切に方向づけていくことの重要性を提起している。特に経済成長が続くアジア大都市の歴史地区では、建物・活動双方の変化が速く、有効な施策を打たなければ境界の独特の雰囲気は失われてしまう。ここでは、その地区のHULを価値づけるもの(対象)と、それらがどのようにして成り立っているか(システム)を理解した上で、適切なマネジメント策を講じることが重要である。

ベトナムのハノイ旧市街は、狭い間口の町家が連続し、同業者が集まる「職業の通り」が特徴的な歴史地区である。11世紀以降、周辺集落から集まった職人らのギルドに由来する地区は、建築と活発な商業活動が結びついて独特の魅力を放ち、多くの観光客を惹きつける。ギルド組織が失われ売られている商品の多くが変わった今も、同業者集積という商売形態は継承されている。2010年代に入り、職業の通りは行政の計画や条例で保全対象となった。その方策として、物理的環境については具体的な規制がある一方、産業面では「伝統的な職業の通りの生産活動の支援」「伝統的な商業空間の保全」という方針に留まり、個々の通りを特徴付ける同業者の誘導策はない。他方、1990年代以降増加している飲食店やホテル等は、観光資源でもある同業者町の魅力を損なうだけでなく、近年は街区内部にも進出し始め、近隣住民の居住環境を害する面もあり、一定の規制が必要である。

歴史地区保全を目的とする産業規制については、都市計画的な規制・プロセスで担保することが現実的である。地区レベルでの用途規制については日本の地区計画制度、望ましくない産業を間接的に規制するパリの境界プランなどがある。先進諸国で手法は蓄積されているが、旧市街では店舗の入れ替わりも激しく建て替えも横行しており、自律的なコントロール主体となりうる商業組織も不在である。こうした変化の様相や現地の建設管理プロセスの実態を捉え、都市計画規制の中で適切に介入・コントロールしていくことが必要である。

2. 研究の目的

以上を踏まえ、本研究の目的はハノイ旧市街を特徴づける「職業の通り」の価値を検討した上で、その維持誘導に向け、同業者集積と関連する物理的要因を街区・通り・建物の3スケールで特定し、規制誘導策の立案に役立つ手法を検討することで、望ましい同業者集積の誘導、望ましくない集積の抑制に向けた施策を提案することである。

3. 研究の方法

(1) 長期的な職業の通りの変遷分析

職業の通りの歴史的変遷について、過年度の分析に本研究期間中に考察を加えて職業の通りの価値を検討した。文献調査・植民地期史料・観察調査から1873年～2017年までの10時点の集積職業の変遷を分析し、7つの変化パターンを明らかにした。歴史的な変遷を確認した上で職業の通りの価値を定義し、植民地期史料のGIS分析によりその内容を検証した。

(2) 変化の様相の把握：景観変容スコアの作成と検証(ケーススタディ)

職業と店舗ファサードの変化量を量的に比較検討するため、現地観察と既往研究を参考に、ファサードと職業それぞれについて変化のスコアを作成した。ファサードについては、変化の強度を構造的変化(隣接敷地の統合、建て替え、改修、工事中)、表面的変化(ファサードの再塗装、オーニング、看板・バナー、ドア、屋根の変更)、変化なしに分類した。2種類の変化が同時に起こった場合は、強度のスコアを加算した。変化の速度については、2015-2017年と2017-2019年の間で変化が継続した場合に1点を割り当てた。したがって、合計得点は変化の強度と速度の両方を含むものとした。職業についても同様に、2015-2017年と2017-2019年の職業の変化を「変化なし(0点)」、「小さな変化(業態が同じで商品が変化)(1点)」、「大きな変化(業態が異なるものに変化)(2点)」、「閉店(1点)」、「新規開業(1点)」の5つのタイプに分類し、強度を点数化した。さらに、新たに登場したサービスや商品への変更は2点を加算した。速度についてはファサードと同様である。

以上のスコアを地区内でも変化の激しいHang Buom通り沿道の131件の店舗を対象に、2015、2017、2019年の景観調査の結果に適用し、ファサードと職業の変化の程度を算出した。得られた変化スコアの関連を分析するとともに、マッピングして可視化した。

(3) 同業者集積と関連する物理的特徴の検討

地区スケール：植民地期史料のGIS分析(地区全体の集積職業の変遷とマッピング)

同業者集積と関連する物理的特徴について、ハノイの国立公文書館で入手した1929、1933、1938年の領領期の営業税納付者名簿から旧市街のデータを抽出し、ArcGIS 2.9.2を用いてマッピングした。各リストには中小商工業者が立地した通り、建物番号、氏名、職業名が掲載されており、旧市街の範囲内に位置するものはそれぞれ3,181件(1929年)、2,788件(1933年)、2,991件(1938年)だった。マッピングにあたって、既往研究の職業分類に若干の調整を加え、職業を大分類・小分類に分けた。大分類では、5つの業態(商業、製造、製造販売、サービス、フリー

ランス)に分類した。小分類では、21種類の商品またはサービス内容(芸術・文化、書籍・文房具、大工・家具、請負業、食品、一般商品、ヘルスケア、ホテル・レストラン、宝飾品・アクセサリー、皮革、機械・器具、材料、金属・陶器・籐・漆、宗教関連、貸業、露店、業者、繊維・衣料関連、輸送、その他のサービス、その他の製造業)に分類した。地域内の職業分布の傾向を把握するため、各年ごとの大分類のマップを作成した。また、同じ住所番号に複数の店舗が記録されているケースが多数あったため、小分類の職業類型ごとに各年のヒートマップを作成し、相対的な偏在状況と職業分布の変遷を吟味した。

通りスケール：詳細な変化プロセスのケーススタディ(植民地期、現代)

植民地期史料を用いた経年の変化プロセスについて、植民地期に通りの職業構成が変化した通りのうち、3時点とも十分な件数の記録があった Hang Quat 通りを対象に検証した。Hang Quat 通りの3時点の収録数は106件(1929年)、106件(1933年)、109件(1938年)である。集積職業の変遷を追い、その変化の背景について職業の変化の程度(同職業の維持・関連職業への変化・異職業への変化)と従事者の変化に着目し、番地ごとの氏名・職業を突合して変化を分類・集計した。

また、後述する2015-2019年の Hang Buom 通りのケーススタディから、ファサードと職業の変化の分布と物理的特徴についても検討した。

建築スケール：現代の同業者集積を成り立たせるシステムのケーススタディ

現在も金属加工の製造業が継続する Hang Thiec 通りで、2024年3月14~16日に現地調査とヒアリング調査を行った。通り全体の建物・職業を連続立面写真で記録したほか、空間、事業活動、社会的繋がり、3側面について沿道の金属製品の工房・店舗53軒中、11軒にヒアリングするとともに、工房・店舗の大まかな平面構成を記録した。ヒアリング対象の主要な工房・店舗空間は同意を得て内部を観察した。沿道店舗・工房の面積はホアンキエム湖及びハノイ旧市街管理委員会(以下、管理委員会)より2023年に入手した旧市街のCAD図面から間口幅と奥行きを読み取り概算を算出した。

(4) 建設管理プロセスの現況の把握

都市計画規制が担保される建設管理プロセスの実効性について現況を把握するため、建設管理プロセスの中で保全規制の項目がどのように担保されているのか、既存の建築規制内容で、比較的守られている項目を明らかにすることを目的に調査を行った。建設許可発行手続きに関する行政文書調査に加えて、2023年11月に行政関係者(ホアンキエム区人民委員会の都市管理局職員、管理委員会職員、建設秩序管理チーム元職員)3名へのヒアリングを行い、旧市街に関わる建設管理プロセスを規定する法規文書と、具体的な建設管理のプロセス、都市管理局の関わり方、旧市街の保全の課題、建設秩序管理チームの具体的な役割について確認した。また、現行の規制内容の遵守状況について Hang Buom 通りを対象に観察調査を行うとともに、補足的に沿道店舗5件への簡易ヒアリングを行った。

4. 研究成果

(1) 旧市街の職業の通りの価値

150年間の同業者集積の変遷の分析から、旧市街の職業の通りの価値として、システムの価値と経験的価値の2つを見出した。ターニングポイントを経ても常に集積は存在しており、各通りの歴史的背景に関わらず、職業の通りを生み出す動的なシステムの存在が示唆された。植民地期史料のGIS分析からは、特に Hang Bac 通りや Lan Ong 通りをはじめ、今日まで続く同業者集積について植民地期も継続して当該通りへの相対的偏在が確認され、職業の通りの歴史性がデータに基づいて裏付けられた。動的なシステムの存在が最もよく表れているのは、植民地時代とその後の時代における同業者集積の発生・消滅である。3時点の小分類ヒートマップを比較した結果、複数の同業者集積とその地理的変遷が明らかになった。同業者集積の発生や縮小は、元々の職業の通りの起源である職人集落に紐づいたギルドに関係なく見出され、職業の通りが地区の特徴を維持継承するシステムとして機能する、生きた側面をデータに基づいて示すことができた。これは、変化を内包しつつも地区の特性を維持するシステムの存在を裏付けている。旧市街の職業の通りの2つ目の価値は、商業地区を散策する中で展開するシークエンス景観が生み出す経験的価値にある。沿道の街区辺の長さは平均70mであり、1~2分歩くだけで多種多様な職業の通りに出会うことができる。これは時代を経ても変わらない唯一の要素であり、旧市街の歴史的都市景観を特徴づけるものである。

これらの変化は一樣ではなく、取扱商品が変わらない通りから適応的变化を遂げたもの、全く別の職業に変わった通りもあった。こうした異なる変化の様相は7類型に分類できた。さらにこれらの変化は既往研究で指摘されてきた速度だけでなく、強度という視点を導入することで、適応的变化を含めて地区の歴史性の解釈を拡張できる。これにより、HULの変化の様相を、強度と速度の2軸上で分析するフレームワークを見出した。

(2) 現在の職業の通りにおけるHULの変化の様相

上記の分析で見出した変化の強度の視点を取り入れ、2015-2019年の Hang Buom 通りでのファサードと職業変化のスコア分析を行った。その結果、表面的なファサードの変化は、職業の変化の強度に関係なく起こっていることがわかった。特に看板・バナーの変更が多く見られた。また、ホテル・土産物店・旅行代理店等の従来型観光産業に加えて、新たに出現したナイトタイム・エコノミー、ウェルネス観光サービス、多機能複合施設への転用では、ファサードの変化がより強

いことがわかった。

(3) 同業者集積と関連する物理的特徴

地区スケール(植民地期)

植民地期史料のGIS分析から、金属製品の集積が複数の通りの部分で構成されており、通りごとに異なる金属製品が扱われていた事が分かった。このことは通り単位よりも街区単位で集積が発生している可能性を示唆しており、同業者集積の単位は通りレベルよりも街区辺単位で形成されていたと見られる。

通りスケール(植民地期、現在)

植民地期の Hang Quat 通りの分析では、通り名になっており、職人集落との結びつきのあった扇子関連の職業の縮小と指物師および関連職業の発達の流れが見られた。この通りの伝統産業の扇子職人は1929年時点の割合は5.7%と小さく、扇子販売は0.9%だった。1933年では製造はなく販売のみで3.7%、1938年も販売のみで1.8%と縮小傾向にあった。1929年に6件あった扇子職人のうち1933年に受け継がれたのは販売へ転換した1件のみ(違う人)であり、製造から販売のみへ、また件数の減少という形で伝統産業が縮小していく過程が見られる。代わって最多は各年とも指物師であり、関連する木工関連、彫刻の職業も存在した。これらの立地の変化を見ると指物師と関連職業は比較的西側、仕立て屋は時間を経るにつれて東側に集まっている。

従事者を見ると、扇子職人・販売は1929-1933・1933-1938とも違う人が維持した例、1933-38では違う人がたばこ販売との兼業から扇子販売に特化した例があった。指物師は関連職業からの流入があった。1929に指物師だった人が彫刻師に、同じ人が異職業(雨傘修理工)から転業、1938は同じ人が異職業(信仰用品)から指物師+彫刻師へ転業しており、その時に集まりつつある職業へ転換する過程が見られた。1929-1933、1933-1938の比較で双方とも最多は人も職業も変化した類型だった。これらは新規参入者と、家族が継承した店舗で別の職業を始めた例が考えられる。特に東の小街区-中街区の東側で変化したところが多い。このように、集落由来の伝統職業は縮小する一方、新職業の集積は関連職業からの転業や新規参入により形成されていた。

現在のHULの変化と地理的關係を検討するため、Hang Buom 通りにおいて2015年、2017年、2019年の131件のスコアのマッピングから、より変化しやすいスポットを特定した。その結果、より大きなファサードと職業の変化は、観光化が進んだTa Hien 通り、Ma May 通りとの交差点周辺で顕著に見られた。また、西側街区は変化の程度が小さいのに対し、中央部・東側では変化が大きく、ここでも街区辺単位での変化の傾向が見られた。

通り・建物スケール(現在)

現在の同業者集積を成り立たせる通り・建物空間の特徴について、Hang Thiec 通りを分析した。Hang Thiec 通りでは、沿道店舗の78%が金属製品製造・販売業である。沿道の工房・店舗面積は幅があるが、製造のみは15m²未満、販売のみの場合は最小で0m²(路上空間のみ)など、概ね狭い空間で営まれている。この通りの同業者集積空間の特徴として、空間的制約のある沿道の建物では小型・少量生産を主に扱い、大型・大量生産は外部とする製造拠点の使い分け、狭い空間での事業活動を支えるバイクタクシーや原料卸会社等の物流ネットワーク、家族内での製造スキル継承、職人集落との事業上・血縁的な繋がり、同業者集積の内部での事業上の共助関係、の5点が示唆された。

(4) 建設管理プロセスの現状と課題

2013年のハノイ旧市街建築計画管理規制(以下、保全規制)では、高さ、建蔽率、色彩、素材、屋外広告物等について規制がかけられている。さらに、特に重要なメインストリートについては修復の際に参照すべきファサードの修景モデルも示されているが、現状では違反が横行している。こうしたデザインを手続き上担保すべきなのは、建設法に規定された建設管理プロセスである。

旧市街で建築行為を行う場合、申請者はホアンキエム区人民委員会に建設許可申請書をはじめとする関連書類を提出し、都市管理局の担当者が提出書類を確認する。文化財に指定されている建物については、管轄機関の承認書が必要である。建設許可の交付後に行われる現場確認は、各坊人民委員会に組織される建設秩序管理チームが担当し、建設許可の申請時に出された内容に従って建築行為が行われているかを確認する。建設秩序管理チームの職員が違反を確認した際には、違反の内容について報告書を作成し、申請者と調査員それぞれが署名する。申請者がなおも違反行為をやめない場合は、それらの書類を区人民委員会に提出する。

建設秩序管理チーム元職員によると、確認の際には各敷地用の建設許可チェックリストが作成されるとのことだが、その中に保全規制の項目が含まれるかは確認できなかった。ただし、建設許可の交付案内にある建設許可書の書式の中で、個人住宅用には建物の色彩について該当する場合にチェック項目が存在する。このため、保存地区内での建築行為にはこの項目が確認される可能性がある。他にも個人住宅用の書式には、「承認された都市デザインがある地域については、建築計画管理規制の規定内容が追加される」旨の記載があり、ここで保全規制の内容が担保される可能性がある。また、旧市街の建設管理プロセスの特徴として、管理委員会のチェックがある。建物のリノベーション・再建の際には、申請者と管理委員会の間で協議・合意する必要がある。ベトナムの都市計画法では、安定的な土地利用の都市部の区画に対して、建設投資の管理と建設許可の発行の基礎となる都市デザインの策定を規定している(第32条)。保全規制では第

19 条でハノイ市人民委員会の責務として都市デザインの策定が示されているが、これが依然として作成されていないようである。建設許可の書式に建築計画管理規制のチェック項目を入れ込むための前提条件が未策定の状況が続いていることが、執行力が欠如している根本原因のようである。

現行の保全規制の遵守状況を Hang Buom 通りで確認したところ、高さや色彩は比較的守られている一方、看板は設置店舗の約 7 割で違反していた。法的裏付けが不十分な中で望ましい景観形成へ誘導するには、建設許可申請プロセスで求められる管理委員会との協議・同意の段階で担保することが妥当と思われる。また、代替アプローチについてハノイ建設大学の研究協力者と議論し、住民参加型の景観管理の可能性を検討すべきという意見を得た。

(5) 総括

独特の HUL を維持するためには、その地区が経てきた変化を踏まえた上で、特徴的な変化の延長上に保全型のマネジメント策を立案していくことが重要である。本研究では、ハノイ旧市街の「職業の通り」の変遷について、文献資料・統計資料・現地調査から長期的な同業者集積の変遷を明らかにし、変化を内包しながらアイデンティティを維持する動的なシステムとしての価値を指摘した。さらにその価値を維持する同業者集積の変遷プロセスの一端を、史料に基づく GIS による定量的分析とケーススタディにより、地区・街区・通りおよび建物スケールで明らかにし、集積に関わる物理的特徴を明らかにした。また、HUL の変化度を客観的に測る景観スコアを開発した。

変化の様相を分析するフレームワークと HUL 変化スコアの開発

本研究では、変化の強度と速度という 2 軸を元に作成した景観変化の実態を捉えるスコアは、HUL の定量的な分析を可能にした。これにより、既往研究では検討が不十分だった歴史地区における「許容可能な変化の限度」に関する議論を前進させることを目指した。HUL の変化の傾向を地図上にプロットすることで、より変化しやすく、強力な介入が必要な場所を客観的に特定できる。統計分析からは、従来型の観光産業に加えて、ナイトタイムエコノミー、ウェルネス観光サービス、多機能複合施設への用途変更がファサード変化の影響要因として特定された。

同業者集積と関連する物理的特徴

植民地期史料の GIS 分析から、同業者集積の発生に関わる物理的特徴は、通り全体ではなく街区辺単位であることが示唆された。また、現在の Hang Buom 通りでの景観の変化スコアの分析からは、職業・ファサードの変容は通り全体で一緒に起こるのではなく、観光化が進んだ通りとの交差点付近で強く見られるなど、周辺の通りの特性が関係していることが示唆されたほか、街区辺単位で変化パターンが異なることも示された。集積の最小単位として街区辺単位を位置付けることが景観マネジメントにも有効な可能性がある。

また Hang Thiec 通りにおける建築スケールの検討では、集積職業に関わる空間的特徴よりも、狭い空間での製造・販売を成り立たせる流通ネットワークの存在や、通り内での共助関係の重要性が見出された。Hang Thiec 通りの取扱製品は伝統工芸品ではないが、事業を支える仕組みや技術は伝統的なものと現代的なものが混ざっており、時代に応じて適応的变化をしながら職業の通りの無形文化遺産価値を継承していると考えられる。現在の同業者集積を支える仕組みを「生きた文化的伝統 (living cultural tradition)」と捉えることで、職業の通りのシステムとしての価値を持続的に継承できる可能性がある。

都市計画的手法への示唆

ハノイ旧市街にかかる現行の保全規制は、実効性を担保するための上位計画の策定待ちの状態が長く続いており、建設管理プロセスで確認対象となるべきデザイン上の規定が実質的に担保されていない。一方で、旧市街における建築行為には管理委員会の確認は入ることから、この部分で実質的に担保していくことが不可欠である。HUL のマネジメントに対しては、景観スコア分析で影響力が大きい職業をコントロールするためのガイドラインを作成すること、観光化が進んだ通りとの交差点を重点的にモニタリングすること、事業者が参照しやすい適切な看板の具体的な例を提供することで、現行のマネジメントを改善する必要がある。誘導策としては、例えば埼玉県戸田市の三軒協定のように、街区辺単位を最小の景観ユニットとして整備を促す方法も考えられる。

今後の研究課題

今後は、職業の通りの動的なシステムの価値を維持継承するための施策提案に向け、本研究で見出した変化の様相を捉えるフレームワークを用いながら、現在の職業の通りを成り立たせている仕組みについて、事業活動、空間、社会的繋がり観点から明らかにしていくことが求められる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 柏原沙織	4. 巻 10
2. 論文標題 調査報告：ベトナム・ハノイ旧市街における建設管理プロセスの実態	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 神奈川大学アジア・レビュー	6. 最初と最後の頁 36-48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Saori Kashihara	4. 巻 11(1)
2. 論文標題 Redefining urban heritage value for Hanoi trade streets	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Cultural Heritage Management and Sustainable Development	6. 最初と最後の頁 78-94
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1108/JCHMSD-11-2019-0147	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件/うち国際学会 2件）

1. 発表者名 柏原沙織
2. 発表標題 ベトナム・ハノイ旧市街Hang Thiec通りにおける金属製品製造・販売業の同業者集積空間
3. 学会等名 2024年度日本建築学会大会（関東）
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Saori Kashihara
2. 発表標題 Trade Transition in Hanoi 's Ancient Quarter: During the French Colonial Period in the 1930s
3. 学会等名 International Planning History Society 2022（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 柏原沙織
2. 発表標題 ベトナム・ハノイ旧市街における同業者通りの変化の様相 - 植民地期のHang Quat通りを事例として -
3. 学会等名 2020年度日本建築学会大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Saori Kashihara
2. 発表標題 Towards Sustainable Urban Heritage Conservation: a Comparative Study between Ho Chi Minh City and Yokohama City, and Solutions for Ho Chi Minh City
3. 学会等名 International Conference 2019 on Spatial Planning and Sustainable Development (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

1. 神奈川大学アジア研究センター「アジア都市の生活圏」公開研究会「Touristification, gentrification, pandemic, and living heritage: Recent urban transformations at a World Heritage Site and a non-UNESCO historic site」、話題提供「Urban transformation of Hanoi Ancient Quarter and its modern craft streets as living cultural tradition」(2024年5月22日)
2. 神奈川大学アジア研究センター「アジアの社会遺産と地域再生手法」公開講演会 vol.5講演「ベトナム・ハノイ 変化する都市の文化遺産」(2021年7月20日)
3. 東京大学情報学環UTalk講演「変化し続ける面白さ ハノイの旧市街」(2020年1月9日)
4. ミニセミナー「Contact Point of Planning and Informal & Intangible Elements in Urban Space」発表「Incorporating Dynamic Intangible Elements into Urban Heritage Conservation Framework」(2019年11月25日)

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	レ クイン・チー (Le Quynh Chi)	ハノイ建設大学・Faculty of Architecture and Planning・Lecturer	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
ベトナム	ハノイ建設大学			